

2010年(平成22年) 11月28日発行

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1

☎0595-63-7402 ㊟64-2560 ㊟info@city.nabari.mie.jp

㊟http://www.city.nabari.lg.jp

携帯版 ㊟http://www.city.nabari.lg.jp/m\_index.htm

バーコード読み取り対応の携帯電話端末から携帯版 ㊟へ →



▶ 主な内容

P1~2...人権週間関連記事 P2...ひまわり、ふるさと納税ご案内 P3...暮らしの情報 P4...伊賀地域救急輪番表(12月)



第44回三重県人権・同和教育研究大会地元報告

創作劇「よき未来(ひ)のために」  
～未来への夢は現代(いま)も消れずにあった～



同和教育をテーマにした創作劇に市内のさまざまな市民活動団体が参加。高校生がタイムスリップして、部落解放に大きな役割を果たした全国水平社の創立などの歴史を目の当たりにするというストーリー



音訳グループ「こだま」  
(右から) 柳ヶ瀬かおるさん、  
神前ひろ子さん、辻濱子さん

創作劇のテーマが同和教育と聞き、「水平社宣言(※)」を手渡されたときは、正直参加しようかどうか迷いました。自分たちとはあまりかわりがない問題であると感じたからです。

しかし、参加者の皆さんと話し合う中、水平社宣言を劇中で朗読することの意味をひしひしと感じるようになり、宣言の精神を多くの皆さんに伝えたいと思うようになりました。

わたしたちは、広報なばりなどを、目が不自由な人のために音訳する活動をしています。これも「人権」を大切にすることの一つでしょうし、今回の経験は今後の活動にも通じていくものだと思います。

機会があれば、今後も「差別をなくす」活動にぜひとも参加していきたいですね。

第44回三重県人権・同和教育研究大会が10月16日と17日、名張市と伊賀市で開催されました。大会期間中、県内各地から2日間でのべ6000人が集い、人権教育の広がりと深まりを指した報告や活発な議論が行われました。

その中でも、地元報告として発表された創作劇には、伊賀地域で活躍するさまざまな市民活動団体が参加。劇を創り上げていく中で、同和教育や「人権」について考える機会もあり、差別をなくす仲間の輪に広がりが見られることとなりました。

☎ 人権啓発室 63・7909

## 12月4日～10日は人権週間です

# 差別をなくす 仲間の輪



三重県人権・同和教育研究大会で発表された同和教育をテーマにした創作劇には、伊賀地域でさまざまな活動に取り組んでいるメンバーがかかりました。

参加したのは、「部落差別をなくそう」と活動している人権ステージ「はつぴいまる」、太鼓集団「響」、癒し系バンド「ゆりね」の皆さん。そして、これまで同和教育にかかわることは少なかったという音訳グループ「こだま」、箕曲コーラス「ラ・ベスカ」、ギターデュオ「まつたけ」の皆さんも加わりました。市内の中学校で非核平和コンサートに取り組んできた皆さんです。

劇のテーマである同和教育について参加者どうしが話し合うこともあり、部落への偏見を認識したり、「人権」はいったって身近なものであることなどを考えたりする機会となったようです。

「人権」といえば難しく感じるかもしれませんが、福祉や環境、

防災、教育など多様な分野で、一人ひとりを大切にする活動は、既に皆さんが実践されていることです。市では、今回の創作劇のように、地域で活動するさまざまな団体の皆さんを「人権」というキーワードでつなげるが、「差別をなくす」ことはもちろん、「差別をなくす」仲間の輪を広げていきたいと考えています。

創作劇に参加いただいた皆さんと、同和教育について改めて語り合いました。部落に対する思い込みに気付いたり、自分自身を振り返り、見つめなおすことから出発しようと考えたりする姿に「仲間の輪」の広がりを実感しました。今後も、多様な皆さんと人権について考えていきたいですね。



人権啓発室  
吉川 英毅